

同志社大学通信

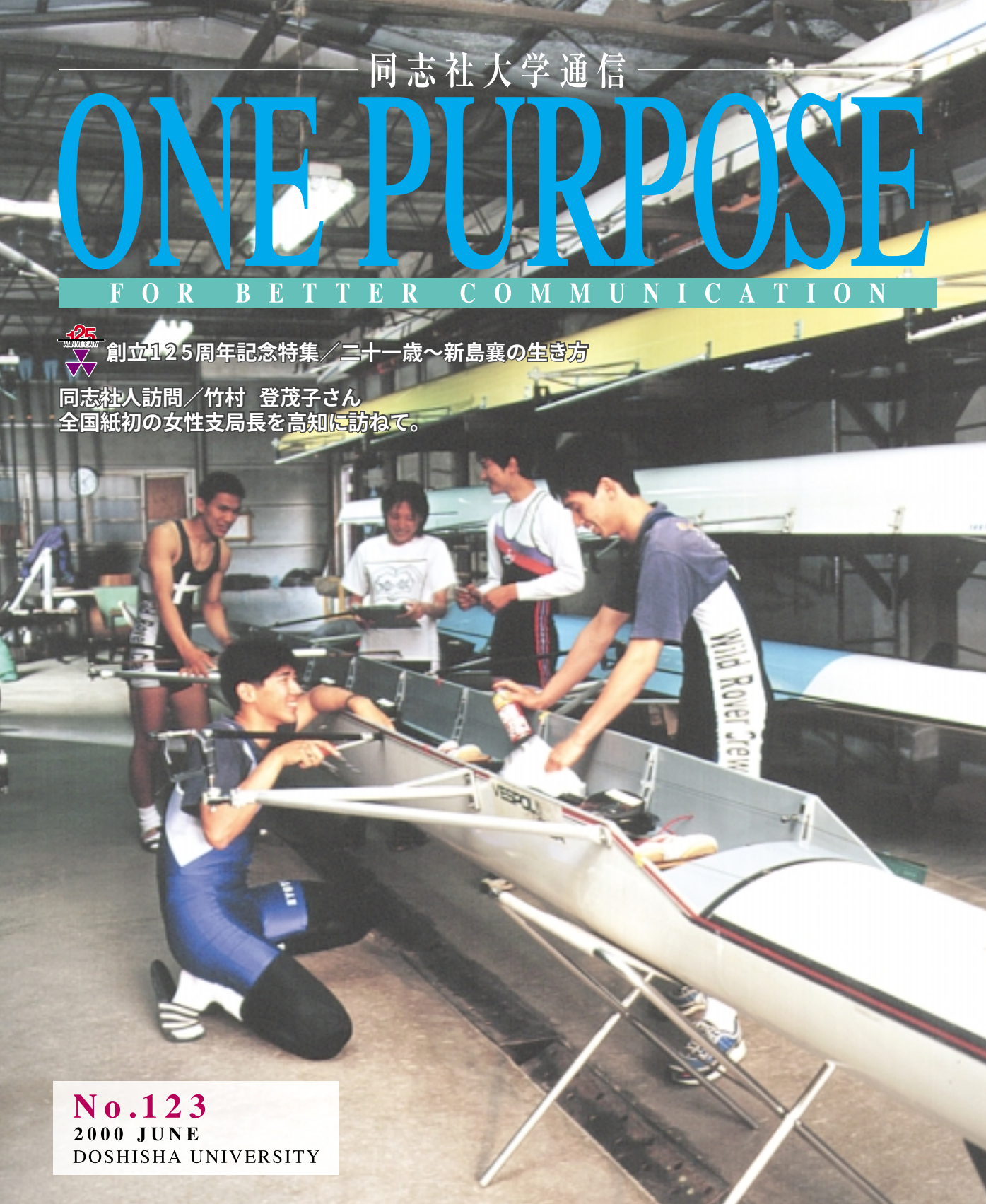
ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION



創立125周年記念特集／二十一歳～新島襄の生き方

同志社人訪問／竹村 登茂子さん
全国紙初の女性支局長を高知に訪ねて。



No.123

2000 JUNE

DOSHISHA UNIVERSITY



2000
▲
NO.
123
▼
JUNE

COVER STORY

〔表紙の情景〕



ボート部の合宿所は、琵琶湖から流れ出る瀬田川河畔に建つ。表紙の写真は合宿所の付属施設として建てられた艇庫。中にはエイトやフォア用舟艇が整然と格納され、部員たちが談笑しながら艇の整備、調整に励んでいる。

この合宿所には現在、25人の部員が合宿に参加し、週4日寝食を共にしながら、トレーニングに励んでいる。練習は、朝の4時30分から7時までと、夕方の6時から8時までの1日2回。主務の銭谷剛志さん(工学部物質化学工学科4年次生)は「今年は、6人の新入部員を迎えましたが、やはり早朝起床に慣れるのに苦労したようです。それさえ乗り越えれば先輩後輩がフランクにつき合える和気あいあいとしたクラブなので馴染むのは早いですよ」と語る。毎朝4時20分、コックスの「起床!」の声とともに起き、「お食事です!」の掛け声とともにテーブルにつく。これが100年以上の歴史を持つ同志社大学ボート部の伝統的な合宿スタイルだそうだ。

C O N T E N T S



創立125周年記念

特集

二十一歳～
新島襄の生き方

2

データで見る同大生の
1999年度就職戦線

7



同志社人訪問●竹村 登茂子さん

全国紙初の女性支局長を
高知に訪ねて

9

ゼミ・ゼミ おじゃまします●工学部：有機合成化学研究室
分子の化学反応を自らの理論で解明する

12

2000年度大学予算について

15

キャンパスニュース&アナウンスメント

17

ONE PURPOSE コメンタリー

21

本学教員の推薦する VIDEO & BOOK

23

私と「仕事」

25

特集

125
ANNIVERSARY
創立百二十五周年記念



新島襄

新島襄は1843年(天保14年)2月12日、上州(群馬県)安中藩主板倉勝明の江戸藩邸に誕生。好学有為の秀才として藩主に選抜され、蘭学を学ぶ間にキリスト教の漢訳聖書を読み、神に対する畏敬と教国の理想に燃え、1864(元治元)年函館に渡り、6月14日夜ひそかに外国船に乗船、幕末風雲急を告げる祖国を後に渡米。在米中ハーディ氏夫妻の保護と援助によりフィリップスアカデミー、アーモスト大学及びアンドーヴァー神学校に学び10年の研修を積み1874(明治7)年帰国。翌年、京都府顧問山本覚馬、宣教師デイヴィスと結び同志社を創設する。

二十一歳～新島襄の生き方

同志社英学校が開校されて、今年で百二十五周年を迎える。教員は新島襄とデイヴィス、生徒はわずか八人の門出であった。二十一歳で日本を密出国した新島が、足かけ十年におよぶ欧米生活から帰国してわずか一年しかたっていない。私たちは、今年、記念すべき年を迎えるにあたり、創立者の波乱に富んだ生涯を今一度振り返るとともに、西洋文化との出会いに夢を馳せた若き新島襄の人間像に迫ってみたい。

青春の情熱と未知への憧れ

沖田 ● 新島襄について考える手掛かりとして、私はよく同時代の幕末の志士たちと比べてみるのですが、新島は彼らに比べるとかなり異質です。政治的な意識も希薄で、いわゆるノンポリ青年ですね。

百合野 ● 当時の幕藩体制にあつて、新島襄の行った行為はサムライとしては明らかにサボタージュですね。彼の周囲を見渡しても共鳴する友人も見当たらないし、情報も少ない。そんな中で一人、よく海外を目指そうという気になったものです。

沖田 ● きうと軍艦操練所にいたことが大きかったのだろうと推察します。ここでオランダ



軍艦の威容に触れているし、航海術や数学を学んでいますから、西洋文明への憧れが醸成されていたのでしょう。しかし、函館に向かう段階ですでに国家を憂いて脱国を決意していたかというところも疑わしい気がします。

ね。後に徳富蘇峰あたりが脚色した面が多分にあるのではないだろうか。

百合野 ● 函館は、当時の内地の人間にとつては異境の地ですね。武田諸術調所で学ぶという目標があつたにせよ、知己の一人もない土地を目指し、そこから脱国を企てるまでによく気持ちを盛り上げていたものだと感じます。その一方で、何かわれわれの青春期に似たものを感じないでもありません。バックパッキングを背負つてあてもなく旅したような…。

沖田 ● 青年期特有の狂気のようなものですかね。確かに新島

にもそれが見受けられます。脱国という行為もそうですが、武士でありながら、刀も薙(まげ)もあつけないほどすっぱりと捨てたりね。当時の通念からすると葛藤のようなものがあってもよさそうなのですが、微塵も感じられない！それほど西洋文化、というか自由に憧れたのですね。

百合野 ●勉強の好きな青年だったから、未知なるものにどんどん惹かれていく。ただそれが知識欲だけにとどまらないですね。蘭学を学ぶだけなら、当時でも充分な環境があったはずですが、新島はもっと向こうまで行きたくなる。自らを形成する旧来の価値体系、国家や藩、家族をかなぐり捨て、蘭学と少し違っただけの英字を手掛かりに密航を企てる。それはあたかも自己解体を試みるよう



百合野 正博さん 【商学部教授】

一九四九年京都市生まれ。一九七九年同志社大学大学院商学研究科修士課程修了。会計監査に関する著書、論文を多く執筆。「函館キャン」に参加して以来、ゼミで函館ツアーに出かけたり、若王子の墓参ツアーを企画し、新島襄に関する学生への啓蒙に積極的に取り組む。

なもので、今の若者たちが未知の世界に憧れて、海外に出かけるのとは訳が違いますね。

教育の原点に おかれた 「個」へのこだわり

沖田 ●脱国と、それに続く米国での生活はひと言でいうと新島の自分探しの旅ですね。幕末とはいえ鎖国下の徳川時代にあって、西洋文明という光明に出会い、キリスト教に共感する。でもどっぷり浸かっていくことはしない。それは彼があくまで、私(わたくし)“から出発しているからです。新島はキリスト教というよりも、キリスト教主義ということを行います。学校の設立にあたってモーションのアメリカン・ボードがキリスト教宣教の場にしたがったのに対し、キリスト教主義による教育を主張する。普通の青年に夢を与えたいと願ったのです。キリスト教主義による教育とは何か。それは良心に基づく教育です。新島が言っているのですが、道徳のない知識はよく切れるナイフのようなもので、時として人を傷つけるものなのです。

百合野 ●新島襄のそのあたりの思想を知ることにはなかなか難しい。私の息子の教科書を

読むと、確かに私学同志社の創立者として名前が出てきますが、四十代で亡くなったこともあって、それ以上の情報にふれる機会はまことに少ない。本学で学ぶ学生諸君の多くもその程度の知識しか持っていないでしょう。

沖田 ●主要な著書を著していないということもあって、新島の思想と実像に触れる機会は確かに少ないと思います。しかし、見える教科書として、学生たちは新島の精神を呼吸している。たとえば、研究室に学生が来て教員とお茶を飲む。そんなことは同志社の学生ならあたりまえのことだと思うでしょうがこの光景を国立大学の学生あたりが見たら驚きます。同志社には「社員たるものは生徒を鄭重に取り扱うべき」という新島の教えがあつて、このような風土を育んできたのです。

百合野 ●何度読んでも感動するのが、ランドで開かれたアメリカン・ボードの年次大会で行った新島の演説とこれを聞いて所持金を全部献金した農夫の話ですね。こうした逸話から察するに新島襄は、自分の思いを上手に他人に伝える能力を持った人だという気がしますね。

沖田 ●至誠の人だからという言い方がされますね。人格者と捉えることも、誠実な人と捉えることもできると思うのですが、私は、新島襄は自分に忠実な人だったと思います。





沖田 行司さん [文学部教授]

一九四八年京都府生まれ。一九七九年同志社大学大学院文学研究科博士課程（後期課程）中退。一九八九年から一年間ハワイ大学日本研究所客員教授、日本教育の近代化と伝統思想に関する研究に取り組み、新島襄にも造詣が深く、「函館キャンブ」には学生を引率して二度参加。

私に“こたわり”、“個”に“こたわった”私学開校にあたって“個”があつて国家がある。国家は、あくまで“個”を生かすものでなければならぬ——と考えたのです。だから教育は官学でなく、私学で行われねばならないと、“個”だけから出発すると「自由は分かるが、同志社の『自治』はなかなか分かりづらい。でも彼が考えた“個”と国家、あるいは全体との関係で考えると分かりやすいと思います。

百合野 ● 福沢諭吉や大隈重信は、教育以外の功労でも名を残していますが、新島襄には同志社しかない。でも、同志社で教育しようとした自治自立の精神は、今でもちっとも古臭くない。

沖田 ● 実は今、新島襄が書き残したものの現代語訳を進めているところなのです。“私”を起点とする新島の心の軌跡や体験は、当時の歴史や政治的な背景を知らなくても理解できると思うので、高校生が読んでもおもしろいと思います。それから同志社では創立者というこゝもあつてとかくスーパースターにしたがる傾向があるかと思うのですが、実際に彼が書いたものを読んでみると、虚像であつた部分も明らかになるのではないのでしょうか。

百合野 ● 新島は、ある意味孤独な青春を送っていますね。函館時代でも心を許して語



り合える人は、福士卯之吉くらいしか登場しない。きつと悩んだことも多かっただろうし、辛い思いもしただろうと思います。

沖田 ● 青春期というのはそういうものです。昔なら元服式があつて、だいたい十五歳くらいから大人の仲間入りの準備をします。その間に自分探しをする。新島襄にはそれが脱国というかたちで、シンボリックに現れます。だから悩み多き青春期を送る大学生が、新島の書いたものを読むと彼が考えてきたこと、思っていたことが追体験できて、ある意味では五十代の私たちよりよく理解できるのではないのでしょうか。

百合野 ● 新島は現代の若者に近い自我の形成をしてきたということですね。現状への閉塞感や異文化への憧れ、自由への渴望など、

学生たちが読んだらきっと共感すると思います。私はつねづね思っているのですが、最近の学生は忙し過ぎて、そのあたりのことを考えるゆとりがない。へたをすれば、私たち以上にスケジュールが詰まっていたりしますから。私たちの頃のように、目的もなく大学に出てきて、ぶらつと過ごすなんてことなどまずないでしょう。

沖田 ● 退屈するっていうのはとても大切なことなんです。何もすることがなくて、退屈で退屈で……そんなとき、いろいろなことを考えるのです。バブルが崩壊して、就職活動も思い通りに運ばない、そんな今こそ開き直ってポーツと過ごす絶好機だと思うのですが（笑）。

百合野 ● 私は、同志社大学に来たからには、「学生諸君どうぞ悩んでください」と言いたいですね。大いに悩めば、きっとその向こうに光明が見えてきます。われわれ教員も胸襟を開いて相談にのり、大学にも悩める学生を温かく見守る包容力があります。

沖田 ● そういう意味でも注目して欲しいのが、二十代の新島の生き方ですね。よく学生に言うのです、「新島に語りかけてみなさい。そうすれば新島が必ず語りかけてくる」と。新島襄とはそういう人です。学生のみならず、人の悩みを充分に理解できる青春時代を送ってきた人なのです。

創立百二十五周年記念特集

学生インタビュー

～同大生の意識の中の新島襄

創立者の名前は知っていても、どのような生涯をおくった人なのかよく知らない。まして思想は知るよしもない。これが、多くの同大生の現実ではないだろうか。しかし、あるきっかけから新島襄の存在を意識した人、その人となりに魅せられた人も少なくない。本稿では、そんな学生たちにインタビューし、創立者の存在にふれる意義について聞かせてもらった。

自由に学べる環境の中で

衛藤 瑠生さん

【神学部四年次生】



宗教とは何かを探ることは、人間とは何かを探ることだと、こここのところ、ますますいろいろな分野に目が広がった。これも同志社に学んだおかげとのこと。学生保険部会の委員長を務めたことなど、貴重な体験を経て、今は、全国のお祭りなどを見てまわることが楽しい日々。

えたかったのです。あれほど精力的に各地に伝道活動を展開しながら、自らが設立した同志社は、学生をキリスト教徒にするためのだけの学校ではないと言い切ってしまう。クリスチアンではない私が神学部で学べるのは、新島のこんな、ふところの深さ“のおかげです。

新島の魅力の一つ―学生思いであることは、今の同志社の先生方にそのまま受け継がれていると思います。二年前、足のじん帯を切って入院したときは、先生方のあたたかさをひしひしと感じました。

今出川通りに面した大学の正門を入ると、「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」と書かれた「良心碑」が植え込みの中に建っています。この碑を見る度に、新島が同志社で育てようとした学生―真理と自由を愛し、自治自立の精神を持つ人間―に、私は育っているのだろうか、とわが身を振りかえってとざりします。

同志社に流れる「新島精神」を考えると、私が神学部に入った動機の一つでした。同志社女子中学校・高等学校の先生方の生徒に対する姿勢、六年間毎朝あった礼拝など、今もなお、同志社に脈々と受け継がれるキリスト教精神、そして新島精神について、もっと考

えていけること、こへでも行けると強い気持ちになります。新島が設立し、先輩が苦勞して受け継いできた同志社とその精神を、形は違っ



自分の将来を考えるにあたり、新島襄の生き方を検証する。

菅野 智之さん

【工学部電気工学科専攻博士課程 二年次生】



現在、電磁界の数値解析を用いて超高压レベルの試験設備の性能評価について研究。将来はエネルギー関連の仕事に従事する予定。就職活動の年に、同年期の新島の生き方を学び、自己確認できたのは大きいと話す。

私が、新島襄について最初に知ったのは、同志社大学に入学し、工学部の雨谷先生のアドバイザークラスが毎年企画する墓参ツアーに参加したときでした。先生に引率されたわれわれは、まるでハイキングにでも出かけるような軽やかな気分です。若王子にある創立者新島襄のお墓に参り、先生が語る人間新島の話に

でも、私なりに受け継いでいくことが「同志社に学ぶ」ということだと考えています。どんな生き方をするにせよ、新島の持ちつづけた探求心というものを私もずっと持ち続け、自分の道を進みたいと思っています。



耳を傾けました。しかし、それを聞いた学生のうち何人が創立者の生き方に感銘し、志を受け継ごうと考えたでしょう。私自身も、国禁を破って密航した行動力には、凄いなあと感動しましたが、それ以上のものはありませんでした。翌年も参加しましたが、当日がたいへんな大雨だったので、大変だったことばかりが印象として残っていました。

その後は、基参にも参加せず、新島とは無縁の生活を送ってききましたが、今年あらためて大学院生として基参ツアーに参加してみました。すると今まで知っていた新島の生き方に、次々に疑問がわいてきたのです。なぜそんなにまで外国文化にひかれたのか、なぜ外国語もままならないのに外国文化を知ろうと思ったのか、その手段としてなぜ密航を選んだのか。これは真剣に考えてみなければと思います。彼の情熱の源泉となった大いなる知識欲、普通の人は思っても及ばない発想の飛躍、危険をいとわない行動力：これら二つひとつを検証しようと思ったのです。あわせて同じ年頃の自分の内面も分析してみました。知識欲は旺盛だ、発想力も豊かだ、行動力も：まああるほうだと。しかし、新島の心の軌跡をたどってみて決定的な違いがはつきり分かりました。それは、幕末という激動の時代を、高い志を抱いて駆け抜けた新島のひたむきさです。青年期においては、西洋文明を学びキリスト教徒として生きることに進出し、壮年期においては教育に、ひたすら献身した新島の生き方。新島が密航中に日誌に書き付けた「男児志を決して千里に馳す」という漢詩を眺めるたびに、熱い思いが私の中にたぎってくるのを感じます。

新島先生の教育観、倫理観に共鳴する。

程 愼さん
〔文学部文化学科教育学専攻三年次生〕



中国の山東省出身。師範学校卒業後、幼稚園に勤務するが、改革進む母国にあって教育の必要性を痛感。1996年に来日し、語学学校で日本語を学んだ後、同志社大学文学部に入學、教育学を専攻する。新島愼賞論文に応募し、特別賞を受賞。

夏休みを利用して、新島を少し勉強してみようと思い立ったのは昨年の事でした。自分の学ぶ大学の創立者のことを知っておきたいという単純な動機だったのですが、関連の書籍を読み進むうちに、どんどんひかれていきました。そのわけは、新島先生が近代日本の黎明期に教育がいかに重要であるかを洞察していたこと。これはまさに同志社で学ぶことを決意した私のテーマと一致するものでした。さらには、新島先生は西洋的な教育と、キリスト教主義を持ち込もうとされた方だという認識があったのですが、先生の思想の根幹をなすのが東洋的な教養、とりわけ私の母国の儒学だと分かったからでした。出身藩である安中藩の藩主が漢学に熟達した英君であることも手伝って、中国古典に精通されていたようです。キリスト教に出会われたのも、当然のように聖書の漢語訳を通じてでした。

そうして私は、新島先生における中国的なもののという観点から二つの言葉に着目して

みました。一つは学校名にもなっている「同志」という言葉です。発案者は山本覚馬ですが、「同志」とは中国の古史書「国語」の中の「晋語」に出てくる「同徳則同心、同心則同志、すなわち、道徳を同じくするものは、心が同じであり、心を同じくするものは志も同じである」という意味です。もうひとつ私が着目した言葉は「桃李」です。先生が書かれたものに「桃李不言下自成蹊」がありますが、この「桃李」とは中国では素晴らしいものの象徴としてしばしば使われます。たとえば「三國志」で知られる劉備、関羽、張飛が義兄弟の契りを結ぶのもこの「桃李」下でした。すなわち先生はこの「桃李」という言葉に託して、「優れた人のもとには、多くの人が集まってくる」という、教育思想を示そうとされたのです。優れた人とは人品高尚な人という意味です。

教育と中国の倫理観。私自身が立脚するこの二つについて、新島先生の思想と通底するものが多いことは、大きな発見であり、同志社大学で学ぶ意義をあらためて確認することができました。

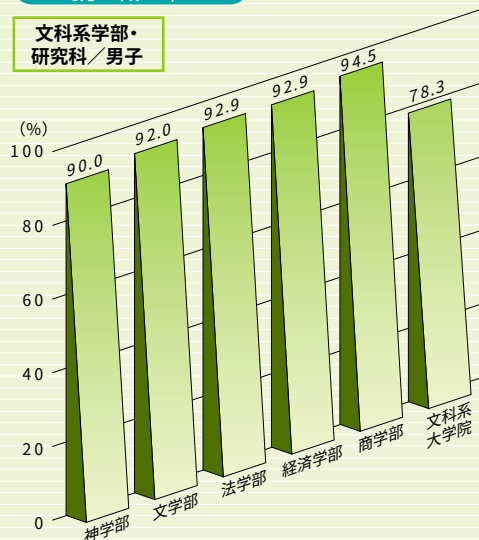


データでみる同大生の 1999年度就職戦線

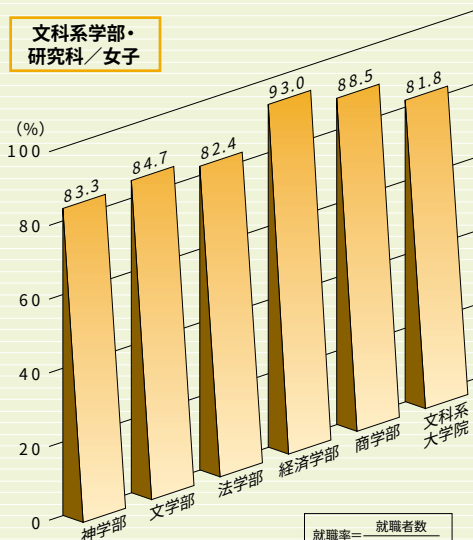
'99年度就職戦線は、極めて厳しい状況であった。内定率も文部・労働省調査で最悪を記録。企業が業績の悪化、過剰雇用などを背景に、近来にない抑制・厳選方針でのぞんだためだ。しかし本学学生はよく健闘し、前年と遜色ない成果を残した。とはいえ、就職のできる学生とできない学生が二極化する傾向を免れたわけではない。大学生活をどう過ごしたかによって、結果は明暗を分ける。三年次生以下の学生諸君は、自覚的に大学生活を送ることが肝要である。

就職率

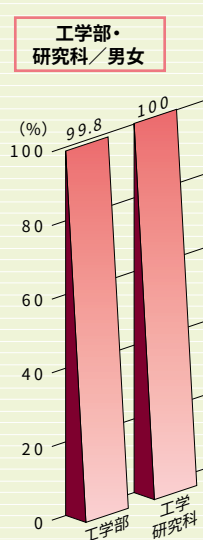
文科系学部・
研究科/男子



文科系学部・
研究科/女子



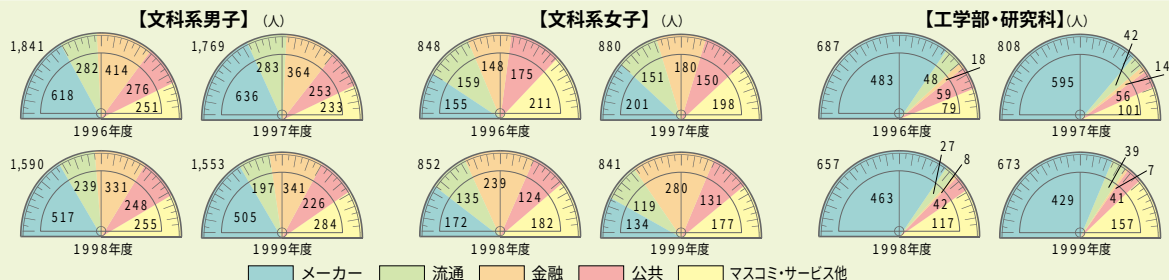
工学部・
研究科/男女



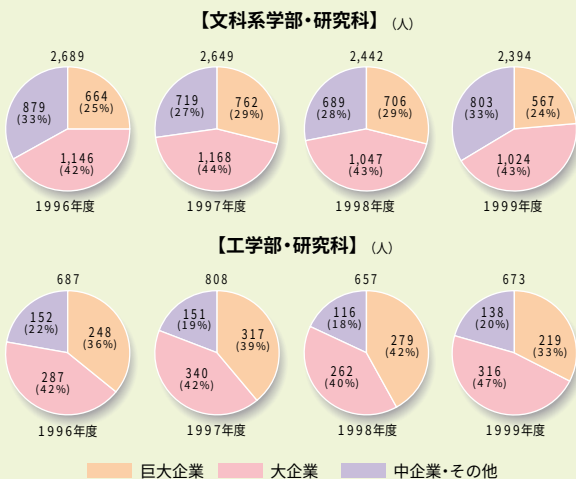
就職率 = $\frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$

ユニ・チャーム	6	住友生命保険	5	朝日生命保険	4	住友銀行	4	日本リース	4
愛知県職員	5	大和証券グループ本社	5	アサヒビール	4	西武百貨店	4	任天堂	4
アイリスオーヤマ	5	中国銀行	5	アシスト	4	全日空トラベル	4	ネクサス	4
アプラス	5	電通	5	石川島播磨重工業	4	寶酒造	4	ノエビア	4
大垣共立銀行	5	凸版印刷	5	伊藤忠テクノサイエンス	4	第一勧業銀行	4	八光信用金庫	4
大阪府職員	5	トランス・コスモス	5	大阪有線放送社	4	大同生命保険	4	光通信	4
沖電気工業	5	ニチコン	5	大塚家具	4	電通国際情報サービス	4	藤沢薬品工業	4
鐘紡	5	ビーマインド	5	オムロン	4	東京コンピュータサービス	4	北陸製薬	4
川崎重工業	5	ファーストリテイリング	5	鐘淵化学工業	5	東芝	4	マキタ	4
関西日本電気ソフトウェア	5	富士写真フイルム	5	カルチュア・コンビニエンス・クラブ	4	東レ	4	松下電工	4
近畿労働金庫	5	日立情報システムズ	5	関西電力	4	豊島	4	マツダ	4
グローバリー	5	百十四銀行	5	キョードー大阪	4	トヨタ自動車	4	明治製菓	4
小林製薬	5	ピーマインド	5	京セラコミュニケーションシステム	4	奈良県職員	4	菱食	4
サントリーフーズ	5	ファーストリテイリング	5	コンパックコンピュータ	4	日新火災海上保険	4		
シーエスケイ	5	富士写真フイルム	5	四国銀行	4	ニッセイ情報テクノロジー	4		
商工組合中央金庫	5	防衛庁職員	5	社会保険診療報酬支払基金	4	日本エア・リキード	4		
商工ファンド	5	三菱信託銀行	5	ジャストテック	4	日本システムディベロップメント	4		
スズキ	5	ミノルタ	5	住商情報システム	4	日本ユニシス	4		
		あざひ銀行	4						

■業種別内定状況

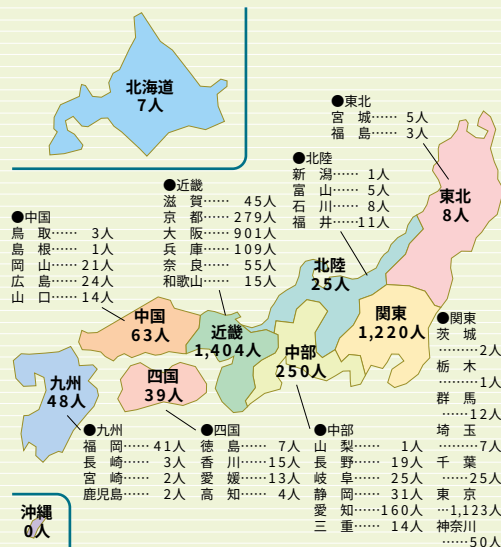


■従業員規模別内定状況



(注) 巨大企業＝従業員5,000人以上 大企業＝500人以上 5,000人未満

■地区別内定状況



■主な就職先と人数

会社名と人数

日本生命保険	34	プロクター・アンド・ギャンブル	9	エヌ・ティ・ティ・データ	7	山之内製薬	7
国家公務員Ⅱ種	28	ファーマー・イースト・インク	12	小野薬品工業	7	リコー	7
松下電器産業	22	さら銀行	11	京都府職員	7	エイチ・アイ・エス	6
安田火災海上保険	21	日立システムアンドサービス	11	裁判所事務官Ⅱ種	7	ジャックス	6
三和銀行	19	富士通	11	サントリー	7	セイコーエプソン	6
京都銀行	17	メイテック	11	シーエーシー	7	タカラスタンダード	6
滋賀銀行	16	キャノン	10	十六銀行	7	第二電電	6
ジャスコ	16	京セラ	10	第一生命保険	7	ダイハツ工業	6
東京海上火災保険	16	西日本電信電話	10	中央信託銀行	7	帝人	6
南都銀行	16	日本ヒューレット・パッカード	10	中央三井信託銀行	7	東海銀行	6
日本アイ・ビー・エム	16	明治生命保険	10	テイケイシイ	7	都市基盤整備公団	6
国税専門官	15	京都信用金庫	9	同志社大学	7	名古屋職員	6
京都中央信用金庫	14	国民生活金融公庫	9	奈良県農協	7	ノヴァ	6
日立製作所	14	国家公務員Ⅲ種	9	野村證券	7	三井海上火災保険	6
京都市職員	13	萬有製薬	9	パナソニック	7	三井生命保険	6
国際証券	12	村田製作所	9	富士銀行	7	三井ホーム	6
積水ハウス	12	安田生命保険	9	本田技研工業	7	三菱重工業	6
富士火災海上保険	12	イズミヤ	9	山口銀行	7	森永乳業	6
		日本電産	9				
		堀場製作所	9				
		三菱電機	9				
		ヤママディーゼル	9				
		インテック	8				
		オリックス	8				
		三洋電機	8				
		シャープ	8				
		住友海上火災保険	8				
		住友信託銀行	8				
		相互印刷紙器	8				
		高島屋	8				
		大和銀行	8				
		萬有製薬	8				
		村田製作所	8				
		安田生命保険	8				
		イズミヤ	7				
		エヌ・ティ・ティ・データ	7				

全国紙初の女性支局長を高知に訪ねて



山田●さうなのですが、新聞記者になられたきっかけをお聞かせください。

竹村●ジャーナリストという職業を意識しはじめたのは、米国のウォーターゲート事件からでした。当時、私は文章を書くのが好きな普通の中学生でしたが、新聞記者の書いた報道記事が政治の姿勢を正し、社会を大きく動かしていく様を見て、ペンでこんなに力があるものなのだと感動しました。以来、ジャーナリストを目指して勉強するようになり、大学でも新聞学を専攻しました。

山田●ご卒業になった一九八一年当時、女性で新聞記者を目指すというのはめずらしかったのでは？

竹村●最初に配属されたのは社会部でいわゆるサツ回りの体験しましたが、男性記者と対等に扱ってもらったためには、いちいち説明をしないといけない。悪気はないのしようが、いろいろとブレイキをかけられました。そんな時代が長く続き、変化の余りの遅さにもどかしい思いをしましたが、考えてみると

山田●実際に仕事に就かれて、ハンディを感じたことはありませんか？

竹村●最初に配属されたのは社会部でい



竹村 登茂子さん

（一九八一年文学部社会科学科新聞学専攻卒業）

一九五八年生まれ、大阪市出身。一九八一年読売新聞大阪本社に入社、社会部記者として活躍。一九八七年から二年間、米国「ニューヨーク大学大学院社会科学研究所」に留学する。帰国後、前職に復帰。一九九九年、全国紙初の女性支局長として高知支局に赴任し、現在に至る。著書には新聞連載をまとめた『とんがらしの少女たち』（一九八六年）と『良い子があぶない？薬物中毒になった若者の生活と意見』（一九九四年）がある。

私の大学生時代と比べてみるといろんなことが変わったし、これからも変わっていくだろう。そう考えてみると未来はけっこう明るい(笑)。

山田●竹村さんにとって、新聞記者という職業の魅力って何でしょう？

竹村●いろいろな人と出会い、いろいろな話が聞けること。そして書いたものについて確かな手応えを得ることができることでしょうか。賛同にしろ、反論にしろ、反響が返ってくるのは書き手として喜ばしいものです。しかもそれが歴史となつて残っていく。社会的に反響を呼んだスクープや特集記事はもちろんです。たゞ小さな記事でも歴史の断章として記録されていきます。

山田●薬物中毒の子供たち取材された『良い子があふない』を読ませていただいたのですが、あの著書も大きな反響を呼んだのでは？

竹村●『良い子があふない』は新聞連載を一冊にまとめたものです。最近でこそ、青少年にまつわる事件が大きくクローズアップされていますが、当時は新聞紙面で取り上げられることは少なかった。でも、私が出くわす子供たちの事件の中に、彼らの中に集つてくる病巣のようなものを感じたんですね。ごく普通の子供たちが、薬物に出会い、それに侵されていく現実を知ると、放つて置けないじゃないですか。華々しい事件を追うだけがジャーナリズムじゃないし、中学生や高校生の間で広がっていく社会的病理は、個別の事件を解決すればいいという問題ではなくなつていんだ、そんな思いで書きました。

山田●少年事件の匿名報道についてはどうお考えになりますか？

竹村●なんでもかんでもオープンにしろというのではないけれど、だからといって知らに包み隠す報道というのが、果たしてこれからの時代にとつていいことなのかという気がしています。そういう意味で、現行の少年法は改正しないといけないと考えますが、何をどう変えるかが問題ですね。隠すにもオープンにするにしても画一化してしまうのはとても危険なこと。どこまで書き、どこまで隠すかはケースバイケース。最終的には書き手が持つている倫理観にかかってくるのではないかと考えています。でも、こうした原理原則論は、大学で学んでいらつしやるあなたの方が詳しいんじゃないかな(笑)。

山田●ニューヨーク大学大学院に留学されていますが、やはりジャーナリズムを専攻されたのですか？

竹村●二十九歳になり、仕事にも慣れた頃なので、もう一度学び直そうと留学して、犯罪学と共にジャーナリズムも専攻しました。実際に学んでみると、日本と米国のジャーナリズムはずいぶん違いましたね。米国は実践的なカリキュラムが中心で記者クラブのようなどころで実際に取材したり、テレビのコメントターの発言について感想を書かされたりと、まるでインターンシップに行っているよ



うでした。

山田●比較するとどちらが勉強になるとお感じになりましたか？

竹村●現役のジャーナリストだからかもしれないですが、私は日本の授業の方が将来役に立つと思います。学生時代にこそ、報道倫理など、ジャーナリズムの原点を学んでおくことが大切だと思います。あなたもジャーナリスト志望なら、授業でしっかり基礎を身に付けておくべきですね。

山田●ありがとうございます。ところで竹村さんはどのような学生時代をお過ごしでしたか？

竹村●通学に二時間もかかっていましたから、まず辛かったなあという思いが強いですが、でもそのセンブリアワや大学会館で上演される映画など、興味の湧いたものには必ず参加していましたから、学校を充分に活用した学生だったと思います。サークル活動は、シナリオ研究会というのがあつてそこに所属していました。キャンパスで部員を募集する小さなポスターを見つけて入ったのですが、もう活動していないかもしれないですね。そんな小さなサークルでした。思い出としては、自分たちで書いたシナリオを元に8ミリ映画を一本作つたくらいしかありませんが、それでも新聞記者になつて役に立つたなあと思つています。というのは、取材に行つて分かったのですがシナリオを書いていたおかげで事件現場の状況が素直に描写できるんですね。だから問題のありかがとても把握しやすかつたですね。

山田●新聞記者つてとても難しい仕事だと思うのですが、どのような人が向いていると思われませんか？



竹村●新聞社が要求するものはいくつかあるのですが、それをクリアした人イコール立派な新聞記者とはならないですね。私の基準で申し上げると、善悪や好悪の感情ですぐに判断を下す人は、記者として大切なものを見落とす恐れがあります。どんな事件や現象に出くわしても、まず好奇心となぜだろうという疑問から出発できる人が、記者には向いているようです。最近の若い記者を見てみると、みんなスマートフォンで、広い知識を持っているのですが、何かもの足りない。たとえば情報を得るにしても、インターネットを使えば実に簡単に手に入る。でも情報ソースをたどれば誰かが調べたり、取材をしているわけですから、絶対的な客観情報かどうか分からないです。それを何の疑問も差し挟まず受け入れてしまうんですね。たとえば薬物依存の子供にしても、スタンダードな解釈はまずあてはまらない。それぞれに事情があって現在に至っている。その個別事情にまで踏み込まないと理解できないはずなんです。

山田●そうした傾向は私たちの世代に共通のものだと思うのですが、何が問題なのでしょう。竹村●生身の人間に接する機会が少ないからではないでしょうか。あるいは人と接していても、遠慮して心の領域にまで踏み込まないからだとおもいますね。したがって人間同士の深いつきあい方を知らない、だから心の機微もつかみにくいのではないですか。取材で真実に近づくというのは難しく、私は「インタビュ」で、だまされたと思った経験が何度もあるんです。タレントの沢田研二さんの時も、私の質問に沢田さんはすらすらと答えてくださった。順調過ぎるくらいにインタビュでしたが、原稿を書いてはたと気づいたのです。私がどう書きたがっているかを見抜き、その通りを演じてくれたのだと「僕は時代に合わなくなっただけで、さかねえとか」もう落ち目ですから」と、現役の芸能人なら決して口にしないことまで話してくれたのです。そう気づいた時は、まんまとやられた、言葉だけで納得してはいけなさと改めて感じました。

山田●最後になりましたが、竹村さんの今後の抱負をお聞かせください。

竹村●大阪本社勤務から高知支局に転動になって、幸か不幸かとても大きなテーマをいただいたように感じています。今日のマスメディアは明らかに都会に偏在していますね。早い話が、テレビのチャンネルもこちらには少ないです。それなら、東京や大阪と同じように多くの情報が得られるようにすることがメディアの使命かといえ、それだけじゃないと思うのです。都会に住む人と地方で暮らす人では、大事だと思う情報が違う。せうかくの機会ですから、情報の少ない土地でのマスメディアの役割についてじっくり考えてみたいと思っています。

山田●今日は本当に勉強になりました。どうもありがとうございました。

INTERVIEWER

山田 知美さん

【文学部社会科学新聞専攻】
3年次生

3年次生になり、今出川校地に移ってからは余暇をアルバイトにあて、今夏計画しているバリ旅行にそなえる。「犯罪報道の犯罪」に強い関心を抱き、将来は、ジャーナリストになりたいという。好奇心と行動力に富むとのクラスメイトの評。



竹村さんのお話を聞き、「どんなに苦しくても記者になりたい!」との思いを強くしました。

1年次の授業で先生に議論をふっかけました。従軍慰安婦の人権に関する問題で、私は今さら訴え出る彼女たちの姿勢を批判したのです。今思い出しても頬が赤くなりますが、当時は人権問題に本当に無頓着だったのですね。竹村さんに聞いてみたかったのも、この報道における人権の問題でした。少年事件の匿名性や雅子妃殿下のご懐妊報道などについて、新聞記者らしいバランス感覚に富んだ意見を伺うことができていい勉強になりました。竹村さんは、インテリジェンスにあふれた、洗練された方だと思います。ジャーナリストを目指す私に、「どんな苦勞を買ってでも新聞記者になるぞ!」という決意をさせてくれました。

分子の化学反応を 自らの理論で解明する

工学部・機能分子工学科の有機合成化学研究室では、新しい合成法や反応を見出し、医薬品への応用や有害物質の無害化、環境に適応した触媒の開発など生理活性とグリーンケミストリーをキーワードに研究を行っている。ここではゼミ生一人ひとりが研究者。低コスト、低公害、環境への低負荷という現実的な与件の中で、各自が仮説や理論を説き、それを裏付ける実験を行う。彼らを見てみると、あるコンピュータメーカーの広告を思い出した。そこには確かこう書いていたように思う。「本気で世界を変えようと思っている人たちが、本当に世界を変えている」。



松宮 憲一さん

中島 雄一さん

岸本 博昭さん

片岡 陽平さん

大江 洋平さん

道端 嗣海さん

井上 裕基さん

神岡 弘行さん

児玉 英彦さん

今尾 太輔さん



工学部

【有機合成化学研究室】

古川 功
【工学部教授】



太田 哲男
【工学部助教授】

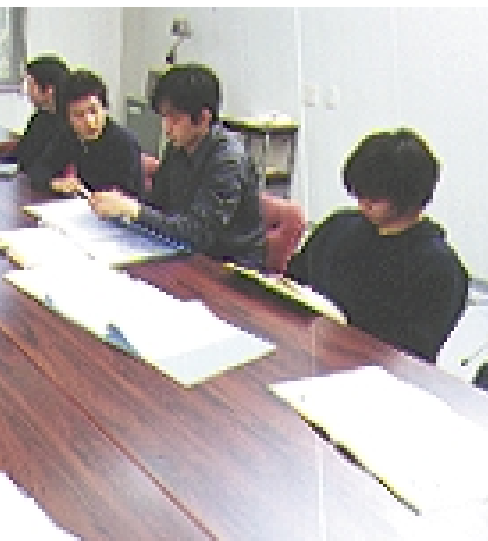
(当日は他の実験のため途中参加)

山下 隆之
【実験講師】

(当日は他の実験のため欠席)

古川 ■ 自然界に存在する資源を環境に配慮しつつ、効率的に化学変化させることによって所期の機能をもつ物質に変換しようというのが私たちの大きな研究テーマです。例えば、医薬品や液晶などで注目されている光学活性化合物などは、従来法では50:50の混合物となり、片方の物質は無駄になると共にその分離も簡単ではない。ところが、自然界では酵素によって片方の物質のみをいとも簡単に作ってしまうことから、われわれもこれと同じ作用機構をもつ触媒を開発したり、人体や環境に害の少ない反応物たとえば有機溶媒の代わりに水を使うなど、新しい反応や化合物を開発しようというのです。そして安価であることや、省エネ・省資源にも配慮することも大切です。今日は、このような課題について皆さんの研究内容を紹介していただきたいと思います。

児玉 ■ 医薬や農薬、液晶など、いろんなところで使われている光学活性化合物を、安価に大量に供給していくために、さまざまな研究がなされていますが、僕は新しい触媒を開発することによって、有害物質ができるだけ発生しない反応を開発することを研究テーマにしています。有機化合物は、水に溶けないため、今までの有機物の反応は、有機の溶媒を使って反応させていました。しかし有機溶媒は有害な物が多いのです。そこで有機溶媒でなく水を使えば、安価で公害も起らないんじゃないか、というのが僕の考えです。つまり、自然界で酵素が水の中で行っている反応を、



高分子ポリマーの触媒を使って同じように行なうことができれば、安価で環境に配慮した化学反応であると思うのです。現在のところ、ポリマーを使うという点で、コスト的に高価で改善すべき課題はありますが、実験結果から見ると触媒の作用についてはおそらく可能だと考えています。

古川 ■ コストについては、トータルで安価であればいいんじゃないかな。環境という切り口では今尾君も同じテーマで、今一番つかいやすい環境汚染物質であるPCBを何とかしてつぶしてやろうというのが研究の狙いですね。

今尾 ■ PCBは非常に有害で、肌に触れただけでも病院に行かないといけないという物質です。それを熱処理で無害化する方法がありますが、高温でしっかりと処理しないとダイオキシンが発生するなど、いろいろ問題があります。僕はこの問題に対し、光で処理する研究でアプローチしていますが、処理効率が悪く、今はその原因を探るためにPCBのいろ



んな電子反応を見る実験を行っています。

神園 ■ 僕は、例えば医薬品の中の有害な物質と薬効のある物質の混合物から化合物の、薬効のあるものだけをうまく取り出す方法を研究しています。これまでは有害な方を、バイオなどの力を借りて分解する方法をとっていました。長時間かかってしまっています。それがある触媒を使うことによって簡単に分解する、つまりバイオの代わりになる触媒をつくる研究です。

古川 ■ その方法は今まで誰もやらなかった画期的な研究です。実験結果の方もかなりうまくいっているということ、ますます興味深いですね。しかし、触媒もすべてに有効かと言え、そうでもない。酵素と同じで特定のものには反応するが、そうでないものにはまったく効かないという性質があります。その辺りの考察はどうでしょう。

神園 ■ やはり、現段階ではこの触媒が有効に働く化合物はかなり制限されます。という

たものに対して、どこまで使えるかを今後の研究で明らかにしていきたいと思っています。

井上 ■ 僕は、ジャスミンの香料成分の研究をしています。ジャスミンの香料成分には四つの異性体があり、その中の一つの成分だけが強い匂いを発し、ほかの三つはほとんど匂いを発しないのです。僕は匂いを発する一つだけを選択的に化学合成できないかを研究しています。

道端 ■ 僕は新しい試薬を使って新しい還元反応を確立しようという研究を進めています。最終的には新しい医薬品を開発するのが目標です。

岸本 ■ 僕が今取り組んでいるのは、有機物の反応過程で、通常二つの分子が結合して一つの化合物になるところを、三つの分子を一度に結合させる研究です。これができるれば、一つの反応過程を省略することができるわけで、非常に有用だと思います。現段階では、ある特定のリン化合物を使えば、それが触媒のような働きをして、三つの分子を一度に結合できることが分かりました。

松宮 ■ 一つの化合物に触媒を加えて反応を



起させると、シス体とトランス体の二つの異性体ができます。トランス体は通常熱を加えることができるのですが、シス体を合成するのは非常に困難です。そのシス体を触媒などを使って選択的に合成するような経路を考えるのが僕の研究テーマです。

中島 ■僕の研究は、光学活性化合物の片方だけをつくる触媒を開発しようという試みです。そのためにどんな配位子を合成したらいいのかを、試行錯誤しながら実験を行っているところです。最近になって、ようやく良好な結果が得られるようになってきました。これからさらに実験データを集めて、触媒の合成手法を説明したいと思っています。

古川 ■これまで、それぞれ自分のテーマについての目的や成果について話をしてもらいましたが、有機合成の研究や将来について何か意見はありませんか。

児玉 ■僕らがこれから研究していく中で、やはり一番大切なことは環境へのやさしさでは



ないでしょうか。クリーンなもので反応や合成を行うとか、ほんのわずかな触媒で反応を起させるような研究が重要だと思います。車で言えば低公害、低燃費であるような。触媒を少なくすることによってコストを抑え、さらにリサイクルもできるような触媒が開発できればベストだと思います。

大江 ■ずっと研究室にこもって行った実験が、うまくいかなかった時が一番しんどい。でも思い通りに反応した時は、すごく嬉しい。苦労すればするほど、その結果を出した自分にひたたりして。その時はすごく気持ちいいですね。

児玉 ■成功ばかりしても面白くない。百やって一の成功ぐらいが一番価値があるのかも知れない。次の研究への大きな原動力になります。

松宮 ■何度も実験を重ねても、うまくいかなかった反応が、何かを加えることで思い通りの結果が得られることがある。これって化学の醍醐味ですね。



井上 ■でも、思うようになかなかいかないのが反応の常です。

片岡 ■みんな研究室に残って、夜遅くまで実験をした帰りに、ラーメンを食べながらの化学談義。これが楽しいんですよ。なんで

あの実験がうまくいかんかったのかなとか、みんなで話し合ったりして。学生として充実した時間を過ごしている気がします。

今尾 ■普通なら同じ研究室で、一人だけ違った研究をするのは許されないとと思うのですが、それがごく自然にやらせてもらえるところがすごい。その分、僕の研究の苦労は人の三倍くらいあるのですが(笑)。

古川 ■自分のやりたい研究に打ち込める、何でもある研究室。ひとつのテーマにこだわらず、いろんなことに食欲に挑戦してほしいですね。みんないろいろ頑張って研究を進めています。新しい何かを作るといいうのは本当に大変なこと。実験がうまくいかずに苦労することも多いですが、最後にはちゃんと新しい反応を見つけて卒業していく。これにはいつも感心させられます。うちのゼミの伝統と言えるかも知れませんね。



2000年度大学予算について

財務部 経理課

本学はこれまでカリキュラム改革をはじめ、昼夜開講制やセメスター制の導入などの制度改革にも取り組み、学部および大学院教育の充実を積極的におこなってきました。また、1999年度には留学生別科を開設して国際主義教育の充実を図るほか、扶桑館の改修により文系学部の教育研究条件を整えるなど教育研究環境の整備充実にも努めてきました。今後、本学の教育研究水準が国際的な評価を得るよう、専門大学院を視野にいたした新たな研究科の設置や学部・学科の新増設などに取り組みつつ、少人数教育に対応した施設設備やマルチメディアを活用した情報教育環境の一層の整備充実と、研究活動の高度化・共同化・学際化に対応した研究条件の改善、充実に努めなければなりません。

2000年度予算編成においては、とくに学部・研究科等の教育研究費の増額および奨学援助をはじめとする教育支援体制の充実を図るための予算の計上、共同研究室などの研究施設設備ならびに図書館などの学生関連施設設備の整備、情報処理教育環境のリプレイス関連経費、国際交流の充実経費、広報活動の充実経費など教育研究環境の一層の充実を図るため重点的な予算を計上しています。また、同志社創立125周年記念事業に係る予算については、法人共通事業として記念事業実施計画等にもとづく所要額を計上するとともに、新たに記念卒業式をはじめとする大学独自の記念事業を予算計上しています。建設事業においては、同志社びわこリトリートセンターの建設事業を前年度に引き続き予算計上するほか、施設設備のライフサイクルを考慮した、尋真館、光塩館、図書館などの改修事業や、情報教育施設の整備など特に緊急性の高い施設設備整備事業を予算計上しています。一方、経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については極力節減するものとし、教育研究水準の維持向上を図るため、限られた財源の重点的、効率的な予算計上をおこなっています。

●収支予算について (表1)

収入面では、学生生徒等納付金については、臨時的定員の段階的解消にともなう入学定員の減少があるものの、これを上回る学費の漸増により一定の増収を見込むことができますが、補助金については、前年度に比較して、学術フロンティア推進事業および教育・学習方法高度情報化推進事業等の施設設備整備に係る補助金対象事業の完了にともない収入見込額が減少となっています。手数料、寄付金、その他の収入については、より一層の増収に努めることとしますが、予算編成方針にもとづき確実に収納が見込めるもののみ計上しています。借入金収入については、新規借入金はなく学校債のみ計上しています。なお、特定支出準備金取崩額については、同志社びわこリトリートセンター建築資金として唐崎ハウス売却資金準備金より相当の取崩額を計上しています。以上により、収入の部合計は310億円となります。

支出面では、人件費については、本学教学の発展のためには教員の充実は緊急の課題であり、教員の実質増員が可能となる予算措置をおこなっています。教育研究経費、管理経費、施設関係支出、設備関係支出および基本金組入額に係る事業内容は事業別予算のとおりです。借入金等の返済については、2年度にわたり返済を繰り延べた市中銀行からの借入金について優先して償還するなど償還計画にもとづく返済額を計上しています。なお、予備費については、今秋開設の同志社びわこリトリートセンターに係る運営諸経費の所要見込額を増額計上しています。以上により、支出の部合計は323億円となります。

以上の結果、2000年度消費収支差額は、経常勘定においては収入超過となるものの、建設勘定では依然として多額の支出超過を計上することになり、合計13億円の消費支出超過となる見通しです。さらに、次年度以降の消費支出に充てる支出準備金に4億円を繰入後の翌年度繰越消費支出超過額は、17億円増加し193億円となる見通しです。

●事業別予算について (表2)

支出項目に係る主な事業内容は次のとおりです。

1 教育研究費

研究費は、学部・研究科における研究室研究費、個人研究費、学術資料整備充実費、学術奨励研究費、高度化推進特別経費、情報化推進特別経費など研究活動に係る経費です。

研究所経費は、人文科学研究所、理工学研究所、アメリカ研究所の研究活動に係る経費です。実験実習費は、工学部、文学部心理学専攻の実験実習に要する経費です。

教育研究援助費は、学部・研究科の教育研究助成費、教学充実費、授業運営費などが主なものです。

情報処理教育研究費は、教育研究支援システム・大型計算機システム・学術情報ネットワーク等の賃借料、情報処理用ソフトウェアのリプレイス経費など情報処理教育に係る経費です。

学術情報整備充実費は、図書館の図書資料およびマルチメディア資料購入費のほか、貴重学術資料・新島遺品庫資料のデジタル化および電子資料の利用環境整備、新規計上の旧分類図書の遡及入力事業などに係る経費です。

国際交流関係費は、学術交流協定校との留学生の受入・派遣に対する奨学金、客員教員・留学生のハウス運営費および宿舍家賃補助制度、サマープログラム実施、留学生別科の運営費など国際交流に係る経費です。

2 学生経費

奨学援助費は、学部・大学院奨学金、夜間主コース奨学金、留学生奨学金などの給付奨学金が主なものです。

学生生活助育費は、課外活動援助、就職活動援助、学生健康管理、学生災害傷害保険、新規計上の就職スタッフ東京長期派遣経費、体験プログラム実施経費、医療費援助事業など授業以外の学生生活に係る経費です。

3 施設・設備整備充実費

教室、図書館、課外施設、体育施設の改修およびマルチメディア設備教室の整備など施設設備

および学習支援環境の整備充実に係る経費です。

4 施設・設備維持管理費

冷暖房運転、守衛、清掃等業務委託をはじめとする施設設備の維持管理に係る経費です。

5 維持運営費

光熱水費、電信電話料、借地料など大学全体の維持運営に係る経費です。

6 一般管理費

新聞紙面によるシリーズ広報、ホームページ充実をはじめとする情報公開および広報誌発行、新規計上の証明書発行システム導入経費、FD支援経費など大学共通の業務運営費に係る経費です。

7 特別事業費

建設事業費として、同志社びわこリトリートセンター建築事業をはじめ、尋真館・光塩館の外壁等改修工事や図書館設備改修工事、情報処理教室・オープン利用室の新規整備事業、実験実習棟設備改修工事、体育施設設備整備改修工事などを計上しています。

8 法人経費

理事会、役員などの法人業務に係る経費、厚生施設に係る経費などを計上しています。

9 創立125周年記念事業費

法人共通事業として記念事業実施計画等にもとづく、記念式典、記念講演、合唱祭、同志社ホームカミングデー・ウィーク等に係る所要額を計上するとともに、新たに記念卒業式をはじめとする大学独自の記念事業を予算計上しています。

10 基本金・準備金

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

組入計画にもとづく、第2号基本金に教学施設整備資金、情報基盤整備資金、研究装置設備等整備資金を、第3号基本金に同志社大学奨学金、国際交流基金、などを計上しています。

(本文中の金額については一億円未満を四捨五入しています)

■2000年度収支予算書 (表1)

2000(平成12)年4月1日から2001(平成13)年3月31日まで

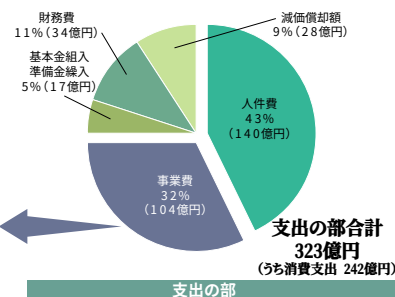
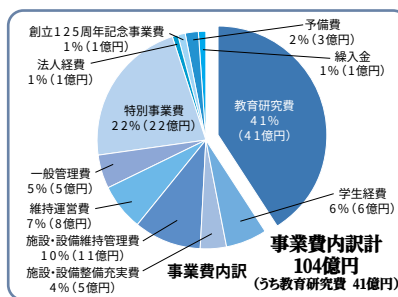
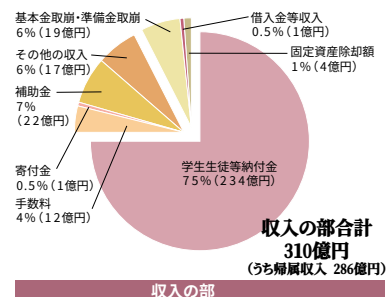
(単位:千円)

収入の部				
科 目	予 算	前年度予算	増	減
学生生徒等納付金	23,396,430	23,108,880		287,550
手 数 料	1,192,600	1,184,800		7,800
寄 付 金	107,000	140,940		△ 33,940
補 助 金	2,172,630	2,401,700		△ 229,070
資産運用収入	477,280	539,850		△ 62,570
資産売却差額	0	0		0
事業収入	105,350	95,160		10,190
雑 収 入	973,420	632,240		341,180
繰 出 金	7,670	7,430		240
分担金	168,990	148,810		20,180
帰属収入合計	(28,601,370)	(28,259,810)		(341,560)
固定資産除却額	438,300	420,950		17,350
前年度基本金組入額繰延額	16,360	9,020		7,340
第2号基本金取崩額	0	860,000		△ 860,000
借入金等収入	100,000	700,000		△ 600,000
基本金過年度組入額、未組入額計	(554,660)	(1,989,970)		(△ 1,435,310)
特定支出準備金取崩額	1,825,510	481,910		1,343,600
収入の部合計	[30,981,540]	[30,731,690]		[249,850]

支出の部				
科 目	予 算	前年度予算	増	減
人 件 費	14,018,870	13,440,550		578,320
教育研究経費	8,648,630	8,303,170		345,460
消耗品費他	5,976,590	5,734,490		242,100
減価償却額	2,672,040	2,568,680		103,360
管理経費	919,380	865,330		54,050
消耗品費他	829,890	781,930		47,960
減価償却額	89,490	83,400		6,090
借入金等利息	224,640	268,600		△ 43,960
資産処分差額	0	0		0
徴収不能引当金繰入額	35,290	59,830		△ 24,540
繰 入 金	97,360	91,870		5,490
予 備 費	250,000	100,000		150,000
消費支出合計	(24,194,170)	(23,129,350)		(1,064,820)
施設関係支出	1,975,950	2,357,030		△ 381,080
設備関係支出	1,220,760	1,720,710		△ 499,950
翌年度基本金組入額繰延額	13,300	16,360		△ 3,060
借入金等返済支出	3,153,190	3,275,220		△ 122,030
前期末未払金	0	22,710		△ 22,710
第2号基本金組入額	1,200,000	1,200,000		0
第3号基本金組入額	450,000	723,160		△ 273,160
第4号基本金組入額	46,000	37,000		9,000
基本金組入額、当年度組入額計	(8,059,200)	(9,352,190)		(△ 1,292,990)
特定支出準備金繰入額	20,910	77,570		△ 56,660
支出の部合計	[32,274,280]	[32,559,110]		[△ 284,830]

収支差額の部				
科 目	予 算	前年度予算	増	減
当年度消費収支差額	(△ 1,292,740)	(△ 1,827,420)		—
消費支出準備金繰入額	△ 397,230	△ 589,770		—
消費支出準備金取崩額	0	0		—
繰入取崩後消費収支差額	[△ 1,689,970]	[△ 2,417,190]		—
前年度繰越消費収支差額	[△ 17,607,720]	[△ 15,190,530]		—
翌年度繰越消費収支差額	[△ 19,297,690]	[△ 17,607,720]		—

■収支構成図



■事業別予算書 (表2)

(単位:千円)

事業別予算総括表		
項 目	予 算	
人 件 費	(14,018,870)	
事業費 (下記内訳参照)	(10,350,550)	
基本金・準備金 (下記内訳参照)	(1,730,210)	
財務費 (下記内訳参照)	(3,413,120)	
減価償却額	(2,761,530)	
支出の部合計	[32,274,280]	

事業費内訳		
項 目	予 算	
教育研究費	(4,120,715)	
研究経費	1,220,996	
研究所経費	173,095	
実験実習費	567,363	
教育研究援助費	325,445	
情報処理教育研究費	826,539	
学術情報整備充実費	337,832	
国際交流関係費	105,369	
入学試験経費	348,799	
教学事務運営費	215,277	
奨学援助費	(615,769)	
学生生活助育費	310,642	
学 察 費	193,433	
施設・設備整備充実費	(460,327)	
施設・設備等整備充実費	460,327	
施設・設備維持管理費	(1,086,094)	
施設・設備等維持管理費	1,086,094	
維持運営費	(763,180)	
通信費・光熱水費	763,180	
一般管理費	(519,905)	
一般管理費	446,568	
教職員福利厚生費	73,337	
特別事業費	(2,175,950)	
同志社びわこリトリートセンター建築	1,732,000	
尋真館外部壁面改修	90,000	
光塩館外部壁面改修	55,000	
図書館空調設備改修	80,000	
実験実習棟空調設備改修	49,500	
情報処理教室等整備	60,000	
その他の建設事業費	109,450	
法人経費	(133,543)	
創立125周年記念事業費	(127,707)	
予 備 費	(250,000)	
繰 入 金	(97,360)	
事業費小計	[10,350,550]	

基本金・準備金内訳		
項 目	予 算	
第2号基本金組入額	(1,200,000)	
教学施設整備資金	900,000	
情報基盤整備資金	100,000	
研究装置設備整備資金	200,000	
第3号基本金組入額	(450,000)	
同志社大学奨学基金	250,000	
国際交流基金	200,000	
第4号基本金組入額	(46,000)	
翌年度基本金組入額繰延額	(13,300)	
特定支出準備金繰入額	(20,910)	
基本金・準備金小計	[1,730,210]	

財務費内訳		
項 目	予 算	
借入金等返済支出	(3,153,190)	
借入金等利息支出	(224,640)	
徴収不能引当金繰入額	(35,290)	
財務費小計	[3,413,120]	

アモスト大学

キャンパスニュース

アナウンスメント



アモスト大学

アモスト大学
派遣留学生募集
(第二十三回新潟スカラー)

アモスト大学は、同大学を一八七〇年に卒業した同志社の創立者新島襄を記念して新潟スカラシップを設立し、一九五四年から今日まで同志社からの留学生二十二人を受け入れていきます。この制度により、奨学金として学費相当額が二年間にわたって支給されます。

一、応募資格

①二〇〇〇年四月現在二十五歳以下で、同志社大学又は同志社女子大学の三年次、四年次、大学院博士課程(前期課程)の在學生及び同志社教員。ただし、過去に同志社から奨学金を得て留学したことのある者は除く。

②TOEFL五七〇点以上

(アモスト大学入学までに、六〇〇点以上取得することが望ましい)

二、留学期間 二〇〇一年九月から

二年間

三、人 数 一人

四、受付期間 六月一日(水)～

二十八日(水)

五、選考日 七月下旬(予定)

六、書類請求及びお問い合わせ先

法人部法人事務部文書課

電話 〇七五(二五)三〇〇六

日本を代表する
ヨットマンが
今出川キャンパスで
講演

四月二十六日、今出川キャンパスで行われた今年最初のアッセンフリーアワーは、海のF1とも言われるヨットレースの世界最高峰アメリカスカップの「ツボン・チャレンジャー」として過去三回の日本からの挑戦すべてに参加した兵頭和行さんを招いて講演会が行われました。

兵頭さんは、一九八二年同志社大学文学部社会学科に入学。在学中は、全日本学生選手権で三年連続の総合優勝を果たし、卒業後は二度の国体制覇、九六年アトランタ五輪ヨットソリン



グ級代表として出場、九八年マチュレイス世界選手権優勝などの経歴をもつ、日本を代表するヨットマンの一人。講演会では、世界の第一線を駆け抜けてきた自身の足跡を振り返りながら、勝負の厳しさや栄冠を手にする喜び、今も鮮明に思い出される大学時代の悔敗のレースが、日々のトレーニングやレースへのモチベーションになっていることなどを熱っぽく語ってくれました。講演の中で、兵頭さんは後輩たちに向け「大学四年間は社会へ出ていくための準備期間。そこで自分が全力で打ち込める何かを見つけて欲しい」とメッセージ。今も現役で活躍する先輩の言葉は、さすがに力強く、説得力がありました。最後にアメリカスカップにかける抱負を語り、約二時間におよぶ講演は幕を閉じました。

「同志社びわこ」
リトリート
センターが
今秋小松宇宮跡に
オープン

学生のクラブ・サークル・ゼミ・合宿などの施設として長年親しまれてきた小松学舎が、創立百二十五周年記念事業の一環として全面的に新築され、あらたに「キリスト教主義教育・国際交流」のための施設「同志社びわこリトリートセンター」(施設全体の総称)として、二〇〇年十一月一日にオープンする運びとなりました。

なお、施設利用の申し込みは、二〇〇年五月八日(月)から施設部管財課(新町校地)及び京田辺校地総務課にて受付けています。

●所在地

滋賀県滋賀郡志賀町大字北小松一七九



※写真は完成予想図です。

<単位：円>

使用区分	和室	洋室	テントサイト
(1) 同志社の学生・生徒・園児	1,800	2,300 (3,000)	1,000
(2) 同志社の教職員及びこれに準じる者並びにその家族 同志社の社友、役員、定年退職者及びこれに準じる者並びにその家族	3,000	3,500 (4,500)	
(3) 同志社の校友及び同窓並びにその家族 同志社の学生・生徒・園児の家族	4,500	5,000 (6,500)	1,500
(4) その他同志社びわこリトリートセンター運営委員会が認めた者	5,000	5,500 (7,000)	1,500
	6,000	6,500 (8,500)	2,000

■施設使用料

- ※1. (4)の内、キリスト教及び国際交流関係の団体使用料は、(1)(2)を適用する
2. (4)の上段料金は25名以上の団体使用の場合に適用する
3. 洋室の()料金は2人部屋を1人で使用する場合に適用する
4. 4歳児以上小学生までは、引率者使用資格の使用料の半額、4歳児未満は無料とする
5. 食事は別途必要となります(料金未定)

<単位：円>

使用区分	午前9時～午後1時	午後1時～午後5時	午前9時～午後5時
同志社の学生・生徒・園児	1,000	1,000	1,500
同志社の教職員及びこれに準じる者並びにその家族 同志社の社友・役員・定年退職者及びこれに準じる者並びにその家族	3,000	3,000	5,000
同志社の校友及び同窓並びにその家族 同志社の学生・生徒・園児の家族	4,000	4,000	7,000
その他同志社びわこリトリートセンター運営委員会が認めた者	5,000	5,000	9,000

■テニスコート使用料(1面)

<単位：円>

室区分	午前9時～12時	午後1時～5時	午後5時～9時	終日
小会議室	2,000	3,000	3,000	7,000
	3,000	4,000	4,000	10,000
中会議室	3,000	4,000	4,000	10,000
	4,000	5,000	5,000	13,000
特別会議室	4,000	5,000	5,000	13,000
	5,000	6,500	6,500	17,000
礼拝堂	8,000	10,000	10,000	26,000
	10,000	13,000	13,000	34,000

■会議室等の使用料

※上段料金は「同志社の校友及び同窓並びにその家族」及び「同志社の学生・生徒・園児の家族」に該当する団体の使用料。
下段料金は「その他同志社びわこリトリートセンター運営委員会が認めた者」に該当する団体の使用料を示す。

WOT 豊田大学はコンサートで！
ノスタルジック・
ナイト？ 哀愁のポ
ルトガルギター &
マンドリン

木曜日は会館ホールへダッシュ！



What's on Thursdays

「マリオネット」
は日本人唯一の本
格的ポルトガルギタ
ー奏者湯浅隆氏と
斯界屈指のマンドリ
ン奏者吉田剛士氏
(一九八二年国文
卒)による異色のアコースティックデュ
オ。マンドリントやギターを組み合
わせた郷愁漂う美しい曲作りと、その
高度なテクニックに定評があります。
デビューCD『ぼるとがる幻想』は二

万五千枚以上のセールスを記録し、イ
ンストゥルメンタルとしては異例のヒッ
トに。ほかにCD『ルジタニア憧憬』『ユ
ーラシアン狂詩曲』『Nostalgie』、NHK
『土曜元氣市』テーマ曲や映画音楽、C
M音楽などでも活躍中。

一九九六年、湯浅氏がその演奏活動
を評価され、ポルトガルの権威ある二
つの組織「ファドの友ポルトガル協会」
「ポルトガルギターとファド・アカデミ
ー」の正会員に迎えられました。一九
九八年にはリスボン国際博覧会に日本
代表として出演するなど、国際的評価
も高いマリオネット。情感溢れる大人
のステージにどうぞご期待下さい！

●七月六日(木)一八時 大学会館二階
一般ラウンジ 入場無料。全席自由
一般参加可。

●お問い合わせ

学生課 電話 〇七五(三)三三三〇



科目登録に
関する手続きの
変更について

昨年度までは『予備登録』で事前に
決定した科目・クラスを、講義開始一
週間後に、それ以外の科目とともに、
再度科目登録していました。この『科
目登録』終了の時点で発生した登録エ
ラーの修正が五月中旬まで続き、一セ
メスター十三回中三、四回の授業が終
了しても登録者が確定しない状態が見
られました。主なエラーとして、①記憶
違いによる予備登録科目のクラス間違
い②予備登録科目の科目登録忘れ③
時間割重複などがあり、予備登録に絡
むエラーが多数を占めていました。

そこで、二〇〇〇年度からは、昨年
度までの『予備登録』を『A日程登録』、
講義開始後の『科目登録』を『B日程登
録』と改め、名称から『予備』を削除す
ることによって、予備登録に対する従
来のあいまいなイメージをなくし、登
録に対する意識を高め、手続きについ
てもA日程登録を予備登録として扱
わず、それがそのまま科目登録となる
ようにシステムを変更しました。このこ
とだけでも、右記②のエラーが解消さ
れました。

さらに、B日程登録前にA日程登録
科目(主に外国語科目や保健体育科
目のみの確認表を配付し、登録したA
日程登録科目のクラスを正確に認識で

きるようにし
ました。このA
日程登録科目
確認表の配付
率は、神・文・
法・経済・商
学部一年次生
が九十八%、
二年次生が九
十六%にのぼ
りました。



これらの結果、上記①、また③のう
ちのA日程登録科目同士の間割重複
を、早く確実に解消することができ
ました。A日程登録科目だけでも登録
者が早期に確定したことで、登録制度
の変更は奏功したといえるでしょう。

障害学生支援の
ための
学生ボランティア
募集について

本年度から、大学では学生ボランテ
アによる障害学生支援の制度を発足
させました。この制度は、学生の支え
合いにより障害学生の正課授業で必
要な支援を行おうというもので、ボラ
ンティア学生派遣のコーディネート
を行う障害学生支援連絡会が中心にな
って実施するものです。支援内容は、
ノートタイク、対面朗読、代筆、テー

おこし、ガイドヘルプなどの活動でさらに活動を支えるために、ボランティア養成講座が開催され、奨励金の支給も予定されています。

すでに、ノートテイクでの補助活動が始まっています。今後もボランティア学生の登録を呼びかけていきますので、関心のある方は左記までご連絡ください。

教務課 京田辺校地教務事務室 学生課

「新島襄・同志社ゆかりの碑」展開催のお知らせ

二〇〇〇年六月一日(木)から今出川

校地・ハリス理化学館二階「NEESMA ROOM」で「新島襄・同志社ゆかりの碑」展が始まる。同志社創立百二十五周年の記念事業の一環として、本学人文科学研究所と同志社史資料室の共催で行われるもの。同展には、創立者新島襄が国禁を破ってアメリカへの密航の途についた記念の地に建つ「新



島襄海外渡航乗船乃処」碑をはじめ、全国に建立された同志社ゆかりの碑の写真を多数集め、展示される。新島襄のみならず、徳富蘇峰など同志社にゆかりの深い人々にもつわる碑もまじえ、同志社の歴史を知るうえで格好の展示会となっている。詳細は左記の通り。なお、これに関連して公開講演会も開催される。

■「新島襄・同志社ゆかりの碑」展

開催期間：二〇〇〇年六月一日(木)

～九月十四日(木)

時 間：九時半～十七時

(土曜日は十二時まで)

会 場：ハリス理化学館二階

「NEESMA ROOM」

(今出川校地)

祝日、同志社の休日は閉室

※夏期休暇中は、開室日・時間が変則的になります。

■公開講演会

「徳富蘇峰・蘆花兄弟の碑

―群馬県伊香保温泉に見る―

開催日：二〇〇〇年六月二十四日(土)

時 間：十三時～十四時

講 師：河野 仁昭氏

(元同志社史資料室長)

場 所：至誠館四番教室(今出川校地)

「新島襄の文明・教育観

―『良心碑』をめぐる―

開催日：二〇〇〇年七月八日(土)

時 間：十三時～十四時

講 師：本井 康博(本学嘱託講師)

場 所：至誠館四番教室(今出川校地)

「本学教員の新聞」

※情報センター調べ

人的資源管理論

島弘先生古稀記念論文集

島弘先生古稀祝賀記念事業会

島弘 執筆 ミネルヴァ書房

非売品

ベストセラーのゆくえ

明治大正の流行小説

真鍋正宏 著 翰林書房 四、二〇〇円

世界の社会福祉 アメリカ・カナ

仲村優一 編集委員会代表 岡本民夫

執筆 旬報社 八、五〇〇円

プラスチックの文化史

可塑性物質の神話学

遠藤亨 著 水声社 三、五〇〇円

国家と教育―森有礼と新島襄の比較研究

井上勝也 著 晃洋書房 二、三三〇円

これからの政策評価システム

―評価手法の理論と実際―

伊多政良雄 編著 中央経済社 二、八〇〇円

「総合的な学習」と人間形成

吉田謙一 ほか著 晃洋書房 一、六〇〇円

研究叢書247

洛東遺芳館所蔵 古浄瑠璃の研究と資料

山田和人 著 和泉書院 二、一〇〇円

EU アムステルダム条約

金丸輝男 編著 鷺江義勝 執筆

ジエトロ 二、一五〇円

日本人をつけた教育 寺子屋・私塾・藩校

沖田行司 著 大巧社 一、二〇〇円

Web授業の創造

―21世紀の図書館情報学教育と情報環境―

大城善盛 ほか著 関西大学出版会

一、四〇〇円

会計士の倫理と推論

LAボネモン ほか著 龍田輝己 ほか訳

税務経理協会 三、六〇〇円

社会福祉の国際比較

―研究の視点・方法と検証―

井岡勉 ほか編 有斐閣 五、〇〇〇円

フランスの保険事業「改訂増補版

三好義之助 著 千倉書房 四、四〇〇円

会社法の規制緩和とコーポレート・ガバナ

森田章 著 中央経済社 三、〇〇〇円

心がつたわるビジネス英語

亀田尚己 著 同文館 一、四〇〇円

現代国際経済研究

同志社大学アメリカ研究所 編

藤原秀夫 植田宏文 篠原総一 西村理 執筆

晃洋書房 二、二〇〇円

脳死 移植報道の迷走

浅野健一 著 創出版 一、六〇〇円

メディアと情報は誰のものか

渡辺武達 著 潮出版社 一、六〇〇円

将来事象会計

加藤盛弘 編著 志賀理 龍田輝己 執筆

森山書店 三、二〇〇円

法の世界へのフロググ 法・裁判・人権

深田三徳 著 昭和堂 二、二〇〇円

イギリス文学への招待

秋篠憲一 圓月勝博 勝山貴之 金谷益道

齊藤延喜 山口賀史 著

朝日出版社 三、〇〇〇円

マーケティングへの歴史的視角

尾崎久仁博 編著 光澤滋朗 ほか執筆

同文館 二、二〇〇円

川崎友巳

〔法学部専任講師〕
一九六九年京都市生まれ。一九九三年同志社大学法学部卒業
同志社大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程（前期課程・
後期課程）を経て、一九九八年同志社大学に助手として入社。
一九九九年から現職。「刑法各論」「原典講読（アメリカの法と
政治）」などを担当。

情報との上手なつきあい方

昔から「十年ひと昔」と言います。時代の流れが速い最近では「五年でひと昔」という声も聞こえてきます。では、十年前の学生と比べて、今の学生に大きな変化がみられるのでしょうか。もちろんフッシャシなど変わっている点もありますが、ふた昔前ちょうど同志社大学の学生だった私には、本質的な違いはそれほど感じられません。いや、けつして無理に共感しようとしているわけではなくて……。

とはいえ、たしかに私が学生だった頃とは違うな」と感じさせられることもあります。とくに学生をとり巻く環境の変化には、大きな違いを認めざるを得ません。その一例が携帯電話やインターネットの普及による情報伝達手段の急速な発達です。最近では、私のゼミの連絡網にも090から始まる電話番号が書かれていることが多くなりましたし、ゼミの幹事も行事予定は電子メールで案内しているようです。また、数年前大学院生だった頃、抜き打ちで小テストをされた先生のお手伝いで試験監督をした際、教室の後ろの方の席で携帯電話を使ってあわてて友人を呼び出している学生たちの姿を見たときは、時代の

変化を実感しました。これらは瑣末な例ですが、十年前と比べて、学生間の情報伝達の「量」と「スピード」が飛躍的に進化したのは間違いないでしょう。情報化社会を生き抜くためには、より多くの情報をいち早く収集することが重要になりますから、学生たちの適応能力には感服します。

ただし、情報伝達の「量」や「スピード」への対応に比べると、情報の「質」への対応は必ずしも十分ではないように思えることがあります。たとえば、学生の間で「良い講義」と「悪い講義」について会話が交わされていることがあります。が、そこでいう「良い」「悪い」とは、誰が何を基準に評価したものでしょうか。片方は授業内容の興味深さを基準にしているのに、相手の方が「楽勝」かどうかを基準としていたのでは、「良い」の意味は必然的に違ってくる。情報を活かすためには、「本当に正しいのか」「客観的な事実なのか、それとも主観的な感想なのか」「どのような基準で測った評価なのか」「多数の意見なのか、ひとりだけの意見なのか」といった点を冷静に判断し、有益な情報とそうでないものを取捨選択すること



とが必要不可欠なはず。誤った情報や不要な情報に踊らされないためには、情報をう呑みにせず、一歩引いて情報に接することが大切だと思います。また、情報の裏付けをとることを心掛けることも必要ではないでしょうか。

他方で、こうした情報の受け手としての心構えと併せて、情報を発信する側としての責任も自覚してもらいたいと感じることがあります。情報の発信源が匿名性を増す今日、無責任な情報をまき散らすことは簡単です。しかし、そうした情報の公害がやがて情報の規制の必要性を唱える声の根拠となり、自由な情報の交流を妨げるきっかけとなることを肝に銘じてほしいのです。自主規制が機能しているからこそ、情報伝達の自由が保障されているということを忘れずに、情報と上手につきあっていきたいと私自身も思っています。

デジタル・アーカイブと 音声データのネット配信

最近話題になっているIT関連技術を二つ紹介する。一つはデジタル・アーカイブ。これは森田雅憲教授の助力をえて本年三月より商学部の一階に「十九世紀ドイツ株式会社定款、法律及び決算報告データベース」として掲載しているものである[<http://commerce01.doshisha.ac.jp/Stauten/StautenTop.htm>]

(文部省科学研究費助成を受けた。このアーカイブは一九〇〇年ベルリン製糖会社から一八八四年ドイツ株式法まで約六〇〇会社定款、約二五〇営業報告書、関係法律・命令等全部で九〇〇以上のデータをオリジナル状態で提供する。

株式会社は法律が作り出したものである。しかし法律が規定する前にもドイツには株式会社はあった。本アーカイブの会社定款等は、いわば自生的にドイツに誕生した株式会社制度を研究したり、商法成立を促した会社実務の状況を分析するために不可欠の史料である(ドイツに同種のものはない)。

京都では京都デジタル・アーカイブ機構と立命館大学がデジタル・アーカイブの先駆者

としてマスコミに登場している。商学部でも三月からネット上に開設した。全世界の多数の研究者の利用を願っている。

もう一つは「音楽データ」ならぬ「音声データ」のネット配信である。これは百合野正博教授と共同で実施している大学のプロジェクト「マルチメディアを利用した新学習システム」の研究・開発でのデータ配布方法である。プロジェクトは学生諸君に対し資格試験(公認会計士等)対策や語学力向上を目的としたC-AI開発とデータ作成をめざしている。

資格試験も語学学習も専門用語や単語・文章を一定数暗記する必要がある。本プログラムの特徴は①文字・音声・画像・映像の四種データを組み合わせて②フジタムに③全問正解まで反復出題し④誤答問題ばかりを集めたファイルを利用的に作成する。⑤音声データとしてMP3データ⑥映像データとしてNHKのアレ番組組を利用(MPEG形式)、その他に⑦MS Wordを利用によりデータ処理が容易(自分用データ作成が簡単)、⑧ほぼすべての学科目・語学に対応した教材を提供できる(フオン

トがあれば何国語でも「手話」練習も可能。

従来の方式(WAV形式)だと学生数分のデータCDを作成する必要があった。音声ファイルはMP3形式で作成すると一单元五十音声単語・文章練習で約六〇〇キロバイト、これなら電話回線経由で約四分、CD作成費用が不要で配布も簡単である。

英語では約一四、五〇〇(TOEICで約七二〇点程度の英語発声処理を終え、同数の日本語処理中、映像データはビデオ録画(NHK映像は著作権法上利用のみである。簿記学Ⅲではクラスネット経由で試験配信している。二〇〇〇年秋季期には英語のネット配信を開始したい。勉強意欲あふれる学生諸君の利用を希望している。



【商学部教授】

一九四八年兵庫生まれ。一九七一年関西学院大学商学部卒業。数年前の会社勤務のち、一九八〇年神戸大学大学院経営学研究科会計学専攻博士後期課程退学。一九八〇年同大学に入社。著書に「十九世紀ドイツ株式会社会計の研究」(近刊)がある。専門が簿記。「税務会計論」「株式会計論」などを担当

川端保至

VIDEO 嘆

石川 立【神学部助教授】

非日常世界の魅力と恐さ

再びドイツの首都になったベルリン。そのベルリンが最も輝いていたのは一九二〇年代のワイマル共和国時代だった。

その頃、脚光を浴びていた女優がマルレーネ・ディートリヒである。一九〇一年ベルリン生まれの彼女はドイツで活躍した後、三〇年にアメリカ映画界に入る。彼女は「一〇〇万ドルの脚線」と退廃美で一時代を築いたが、その渡米のきかけとなったのがこの映画（一九三〇年）の成功だった。ナチスを嫌ってアメリカに帰化。第二次大戦中には連合国軍兵士の慰問をした。九二年にパリで没。

この映画の主人公、ギムナジウムの中年の聖物教授、ライト博士は規則正しい生活が続けてきた。飼っていた小鳥が、朝死んでいるところから映画は始まる。いつも通りの厳格な授業中、ライトは生徒たちが酒場の踊り子に夢中になっていることを知る。この酒場の名がDer Blaue Engel（嘆きの天使）だが、直訳では「青い天使」である。教授は生徒の心を奪い返すために酒場にのりこむ。ところが、その彼のほうがディートリヒ扮する踊り子ローラの妖艶に魅せられてしまう。二人は慧意になるが、このことが生徒の反発を招いてライトは教授職を退かざるをえなくなる。レビュー団がこの地を去るときに実直な彼はローラに結婚を申し込み、二人は一緒になる。巡業地でのライトは稼ぎがないため次第に威厳を失っていき、最後には団長である手品師の相手役のピエロとして舞台に立つ。

ライトが教師をしていた町を離れて五年の歳月が流れた。レビュー団は再びその町で興行することになる。かつて名誉ある教授職にあった地で、ライ

トは今度は屈辱的なピエロ役としてDer Blaue Engelの舞台に立つよう強いられる。舞台に立つライト。観客の嘲笑。舞台裏ではローラが昔の男と戯れている。ライトは正気を失って暴れる。騒動の後ライトはふらふらと夜の雪の町に出て行き、元の学校に入りこんでかつての教壇にしがみつくと。ライトが酒場を出るときにローラは舞台上で繰り返して歌う。Ich bin von Kopf bis Fuss auf Liebe eingestellt（わたしは頭から足の先までラブに

使

おあつらえ向き」と。

人を破壊にまで至らせる非日常世界の魅力と恐ろさが描かれる。日常と非日常の両方を見つめる監督フォン・スタンバークの目は暖かく、どこか可愛らしい作品に仕上がっている。

見所は映画の細部に凝らされた工夫と、やはり、ディートリヒの脚なのだろうか。原作はハインリヒ・マンの小説ウン・ライト教授。古い映画を掘り出すのもなかなかです。



『嘆きの天使』

監督：ジョセフ・フォン・スタンバーク
主演：マルレーネ・ディートリヒ、エミール・ヤニクス
発売元：(株)アイ・ヴィー・シー 定価3,800円（税込）

BOOK 変

庭田 茂吉 【文学部助教】

カフカの倫理学

今私は、池内紀の書物によって、『変身』初版表紙の写真を眺めながらこの文章を書いている。それは、一九一六年、ライプツィヒの出版社クルト・ヴォルフが刊行中の「最後の審判」叢書の一冊に収められたカフカはこの時、面白い注文を付けている。主人公を具体的な絵に表さないようにとのこと。実際、表紙には、虫に変身したグレゴールではなく、片側が開かれた部屋のドアの前に後ろ向きに立ち、両手で顔をおおった男の姿がある。この暗澹たる悲劇的な絵が誤解を招いたのかもしれない。

書き出しはこうである。「ある朝、グレゴール・ザムサがなにか胸騒ぎのする夢からさめると、ベッドのなかの自分が一匹のばかでかい毒虫に変わってしまった。こののに気がついた。背中は甲羅のように固く、腹は褐色でまるくふくれ、幾つもの環節で仕切られている。そして、そこから情けないほど細い足が何本も生えている。季節は冬、外は雨、いつもは四時に起きるのに時刻は六時半。その十五分後、家族の者が騒ぎだして、事態が容易ならざるものであることにわれわれは気づかされる。物語は、この兄の変身の冬の朝から始まり、ザムサ家の日常の生活の変化へと続き、兄の死、そして一家で郊外へと向かう陽春の電車の結末の場面で終わる。この結末もいけなかつたのかもしれない。

この作品は何よりもまず家庭小説であり、喜劇なのである。実存主義とも現代という時代の悲劇とも何ら関係がない。それはもともとの誤解にすぎない。一見したところ、なるほどザムサ家を突然襲った運命は悲劇的ではあるが、それをカフカは虫としての兄と他の家族との関係のズレとして描く。兄は身体全体が虫になっただけではなく、言葉も失い、食べ物の好みさえ変わ

ってしまうが、思考や感情まで奪われたわけではない。今や彼は間違いなく虫であるが、彼は彼である。けれども、両親と妹にとっては虫に変身した兄はもはや兄ではない。だから、彼らにとっては兄の変身は家族に与える不幸ではあるが、兄それ自身の不幸かどうか疑わしい。このズレがおかしい。虫としてのグレゴールの可愛らしさをけなげさ。例えば、家族の者を怖がらせないようにとの配慮から、布をかぶってソファの下に潜り込む彼。虫。ここで問題、妹グレーテは次のように考える。

身



(一)もし虫に変身した兄がもはや兄でないとしたら今
は単なる虫なのだから、それを追い出してもよい。
(二)もし虫に変身した兄が虫ではなく兄だとすれば
兄と一緒に生活できないと悟り、自ら家を出ていく
に違いない。結論はいずれも兄を追放せよというも
のである。けれども、この二通りの対処の仕方しかあ
り得ないのだろうか。もしあり得るとして、虫として
の兄と一緒に生活していく方法とはどんなものか。
答えは私のところまで、期限はなし。

『変身』

カフカ著 岩波書店 1958年
定価300円(税別)

My Life. 仕事

第8回

が仕事を通して見た「社会」とは？
ことの意義とは？

先輩の声に耳を傾けながら、
生生活の現実を考える機会にしたいものです。

My Job
My Life

営業職とは、商品でなく
自分を売り込み、信頼を
得ることではないだろうか。

同志社大学を卒業して、私が飛び込んだのは住宅業界でした。住宅メーカーの営業担当は、土曜日、日曜日、平日ならご主人が会社から帰宅されてからが商談のチャンスと言われるように、不規則な勤務形態を強いられます。土曜日、日曜日が出勤になるので、友人と会う機会も少なく、慣れるまでは少々不便を感じました。ただ仕事の成果が、「家」という目に見えるかたちで残っていくので、達成感はひとしおです。私が就職にあたって住宅業界を選んだ理由もここにありますが、月一棟を目標に営業を行うのですが、がむしゃらに売るといふより、ひとつの案件に誠意を持って対応できることも大きな魅力でした。

元来、私は外交的なタイプとは言えず、今に至るも自分が営業向きの人間だと思った



ことはありません。そんな私が住宅の仕事が続けられ、人並み以上の営業実績が残せたのはなぜだろうと考えてみると、幸運なスタートが切れたことが大きかったように思います。新人のときに担当したある物件は、私の能力の足りない部分を上司や専門スタッフがバックアップしてくれ、想像以上の出来ばえに私自身が驚いてしまいました。住まいの細部とくに内装にこだわり、毎日現場を訪れる施主、それに逐一同行して要望に耳を傾ける私。生涯最大の買い物である住まいとはこうしてつくるのだという手本を学んだことは、その後の私の大切な財産になったように思います。

施主の目線で考える、というよりも自分が家を建てるのであればこうしたい、という発想で臨みます。予算が前提ですから、あれもこれもと願う方には、「ここは諦めましょう。その代わりこちらにもっとお金をかけましょう」と、説得することもあります。結果として、喜んでいただくことが多いのは、私に相手の真意を聞く姿勢があり、一緒にによりよい家をつくりたいという誠意が伝わるからだと思っています。こうした姿勢や考え方は住宅営業

にはとても大切なことだと思います。と言うのが住宅の営業は販売業でなく、請負業だからです。出来合いの製品を売るのはなく、施主と一緒につくっていくものだから、私のような資質の人間が合ったと言えなくもありません。もちろん誠意だけで信頼を得られるわけではなく、住まいに関する技術的な知識や資金計画をお手伝いできる経済や税の知識、幅広い法律の知識、さらには近隣の住人の方々との折衝力なども欠かせないものです。

現在、住み慣れた関西を後にして東京の本社で、人材採用と教育・研修の仕事をしています。業務の内容は変わったとはいえ、原点は同じ。いかに自分を売るか、いかに自分の考えに共感してもらうかが大切だと考えています。まだ社会に飛び出して十年にも満たないのですが、いつまでも後輩の目標になれるような人間でありたいと願っています。

PROFILE

「入社当時は、バブルの余韻が残っていたし、その後は消費税の引き上げ前の駆け込み需要が期待できたので、営業時代は決して苦しくなかった。むしろ今が最悪では…」と語る下倉さん。しかし、第一線の営業担当にとっては、景気の好不況はあまり関係ないのだと言う。優秀な営業担当は、需要が冷え込んでいるいても実績を残すし、そうでない人は景気に関係なく苦しむ。まわりがどうあれ、自分で考え、問題点をつかんで行動できる人なら、どんな環境下でもきっといい結果を残せるはずとのアドバイスをいただいた。



下倉 一利さん

【1991年法学部卒業】

三井ホーム株式会社 人材開発課 課長代理

旅行代理店は、毎年女子大生の就職先人気企業ランキングの上位に顔を出します。「旅行」という夢のある商品を取り扱うからでしょうし、旅行代理店に勤務すると海外旅行に行くことができる機会が多くなるのではとの期待を寄せて志望する方も多いのかもしれませんね。私が就職した当時も旅行代理店の人気は高く、しかも入社人数も多かったもので、研修も二班に分かれて行ったものでした。後半組に回った私などは、右も左も分からないままいきなり窓口に座らされ、ゴールデンウィークを目前に控えて、押し寄せるお客様の対応でてんでこ舞いしたのを覚えています。お客様の口から聞いたこともない温泉名が飛び出しても、慌てず騒がずこそ先輩のところにいつて教えてもらい、窓口にもどって接客する。研修後もそんな日々が続き、なんと

My Job
My Life

華やかに見える旅行ビジネス
でも支えているのは、
私たちの地道な努力なのです。

シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎月「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

私と「My Job」

社会へ出てかれこれ？年。先輩たちあるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違
将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学



か余裕を持って仕事ができるようになったのはやうと二年目に入ってからでした。JRのチケット手配からオーダーメイドの海外旅行まで、取り扱う商品は山ほどあり、覚えなければならぬこともそれだけ多岐にわたるのです。以来八年間、現在の支店で店頭営業を続けてきました。八年間一度も転動がなかったの？と不思議に思われるかもしれませんが、会社のひとつの方針としてお客様への密着を重視しており、行き届いたサービスをお届けすることを目標にしています。行き先の好みやお食事の嗜好などを把握させていただいているお客様は約五十名様となり、意向を伺えばそれに合わせた旅程を立てることができるようになりました。「期待通りの旅行ができた」と喜んでいただくとうれしく、励みになります。もちろんいいことばかりではありません。現地のミスや手違いなどで苦情をいただくこともあります。そんな時はお客様の声に素直に耳を傾け、次の旅行に生かしていきます。

同志社大学では、観光学を専攻していたの

で自然にこの業界に入りました。旅行が好きで、学生時代はヨーロッパやアメリカアジアへ出かけたバックパッカー以外にも、ザックを担いでもっとワイルドな旅を経験したかったと思います。卒業論文も旅館の経営について書きましたが、実際に旅行ビジネスに携わってみて、経営環境の厳しさが身につまされるようになりました。繁盛しているのが、閑古鳥が鳴いていようが、時期がくればかならずリニューアルしないといけない。最近のお客様は敏感ですから、投資を惜しむとすぐそばを向いてしまうのです。学生の立場で、こうした現状を知るのは難しいと思うし、知る必要はないのかもしれませんが、現場に立てば分かることです。むしろ後輩の皆さんには、自分をアピールできるものを持って欲しいと思います。飛行機に詳しいとか、時刻表を見るコツを知っているとか、そんな些細なことでもいい。人には負けない何か、これがとても大切だと思います。

PROFILE

「急激に変化する市場環境の中、21世紀に向けて、お客様の信頼に応えていかなければいけない。これから、もっと勉強して自分を磨いていきたい」と語ってくれた。今春から松本さんも電話営業のグループリーダー。先輩を指導する立場になり、苦勞も増えた一方で、「仕事を覚え、一人ですべてができるようになった頃が一番楽しかったかな」と笑う。



松本 奈美さん

【1992年商学部卒業】

日本交通公社 姫路支店 旅行1課課長代理

お知らせ ANNOUNCEMENT

プール学内一般開放のお知らせ

大学のプール（京田辺校地・屋外）を下記の期間一般開放しますので、ご利用ください。

期間：2000年8月1日（火）～31日（木）

但し、8月14日から18日及び土・日曜日は除く

時間：13:00～16:00

料金：1人1回300円

対象：同志社諸学校の学生・生徒及び教職員（家族を含む）

学生証を必ず持参してください。

アッセンブリーアワー

「世界の海が教えてくれたこと」

日時：6月14日（水） 15:00～

会場：京田辺校地多目的ホールラウンジ

演題：「世界の海が教えてくれたこと」

講師：須賀潮美（水中リポーター）

【プロフィール】

北海道知床半島の流氷の海から沖縄と那国島の間まで、全国の海、川、湖に潜り、学生時代からテレビ番組「ニュースステーション」の水中リポーターを務める。現在では、カナダ、イスラエル、メキシコなど海外からもリポートを送っている。著書に『ダイビングの世界』（岩波新書）などがある。

システム・アドミニストレータ ガイダンス開催

日時：6月9日（金） 10:45～12:15

場所：今出川校地 至誠館2番教室

講師：日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 専任講師 浅井宗海

内容：初級システム・アドミニストレータの資格取得をめざす学生のためのガイダンス

主催：商学部資格試験講座運営委員会

※秋学期に、講座開講を予定。

全国の高校生に向けて、
同志社紹介を積極的にPRする
CD-ROM!!

CD-ROM

D.D.mugmag

ディーディー マグマグ

VOL.1が完成しました!

本学の学生生活を全国の高校生に向けて紹介するCD-ROM「D.D.mugmag」がこのほどできあがりました。このCD-ROMは、同大生のパワフルな1週間の暮らしぶり（授業やアルバイト、サークル活動など）、京都紹介などをふんだんに盛り込んだ内容となっています。この内容をWeb用にアレンジした上で、ホームページにも掲載いたしますので皆さんぜひご覧ください（6月下旬予定）。

また、「D.D.mugmagVOL.2」を今年度も作成する予定です。この企画に対して協力していただける方の募集を行います。詳細については、6月下旬に掲示などによりご案内いたします。

お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

ONE PURPOSE

同志社大学通信123号

2000年6月1日（4・6・10・12月年4回）発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080

E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

